

ゆ

ゆ ゆの発音は いの代りに 使われる事が多い。イ
ウ (言) ユウ

ゆあか (湯垢) 【名詞】 1) 浴槽内壁の沈着物 人脂
や水の溶解物の固まったもの 2) 鉄瓶などに付く
水垢 (上、阿) [会話] 2) ユアカ言うたら 湯呑み
の茶碗に ちゃこびな (が) つくやんない (付くで
しょう) そお言うふうに 1) 風呂でも、ユアカな
(が) 着くやんかな (で有りませんか)。風呂い
(へ) でも 水な (が) 此処い (へ) 迄きとるやろ
(来ているでしょう)、すると 必ず此処な (が)
ユアカな (が) ついて、洗剤で洗らわな (なけれ
ば) 落ちやせんね (落ちないのです)。

ゆあがり (湯上) 【名詞】 1) 浴衣 ゆかた (張)
2) タオル バスタオル 3) 風呂から出たばかり
[会話] 3) 風呂から あがった (出た) 時と、1)
浴衣を ユアガリ言うなあ (言います) 浴衣きよ
(着なさい) 言わんと (言わずに) ユアガリもきや
んかれ (着なさい) 言うてな。

ゆあげ (湯上) 【名詞】 1) タオル 風呂から出て
濡れた体を拭く大きなタオル 2) 作ったばかりの
豆腐 [会話] 1) ユアゲ言うたら バスタオルも
ユアゲの事やしなあ (です)、2) そして とふやど
けでもなあ (豆腐などでも) ユアゲを食べると
美味しい言うてなあ。とふ (豆腐) のユアゲ言うて
な ユアゲ 食べさせてくれ (させて下さい) 言う
て とふ屋 (豆腐屋) 行きおったんよお (行って居
たのです)、作りたてののおをなあ (のを) ユアゲ
や (だ) 言うて。ユアゲ 食べさせて もらおや
(貰いましょう) 言うて とふな 出来上った様
な 時間になあ 行きおったの (行ったのです)。
此の時や (は) まだ ぬきたい (温かい) ほこほこ
のなあ とふ、豆腐言わんと とふ。

ゆあそび (湯遊) 【名詞】 風呂の中で遊ぶこと [会
話] 風呂の中で 遊んどんのおを (でいいるの
を) ユアソビ言うねんなあ (言うのです)、子供ら
な (が) ゆう (湯) の中で いつ迄も ユアソビし
とらんと (していなくて) はよ (早く) あがらんか
れ言うてな 言いおったなあ (言っていました)。

ゆあたり (湯中) 【名詞】 入浴にて気分が悪くなる
事

ゆあび (湯浴) 【名詞】 入浴 行水 ゆあみ

ゆい ゆいの発音がいいになる事が有る 例 イイヤ
イ (言合) ユイヤイ

ゆいあい (言合) 【名詞】 言い争う事 口論 口喧嘩
ゆいやい いいやい (阿、名、南)

ゆいあげる 言い募る

ゆいあげる (ゆひあげる) (結上) 【他ガ下一】 結髪す
る 結髪し終る [会話] 髪をなあ 今しゃ パー
マしとるけど (しているが)、昔は 結いおったや
んかな (居たで有りませんか) 髪を。 そやよって
(それだから) 髪も ユイアゲテ 言うて、綺麗に
梳いとるとな (ていると)、髪も ユイアゲテ 立
派にしとるなあ (している) あの人言うてな。丸髷
やなんわ (とかは) 此処ら 無いしなあ、磯髷やな
あ (です)。磯髷で 立派に 結うとる (ている)
人な (が) 有りおった (有りました)。髷を置いて
後ろも 髷置いてなあ びかびかと油つけてなあ
しとりおったね (していたのです) 髪も ユイアゲ
テ 立派にしてなあ言いおったなあ (言っていました)。

ゆいあるく 1) 言いふらす 言い廻る いいあるく
(南、熊) 2) 言う あるくは歩くでなく、するを
言う語 [会話] 1) どこやかやい (どこへでも) な
んでも (何でも) ユイアルイテナあ言うてな、ふれ
まあす事を ユイアルイテナ言うて。2) ほんとん (本
当に) 歩くくんやなしん (のでなくて) あっちゃや
こっちゃで 喋る事を、だれん (誰に) でも 来た
人んなあ (に) ああや (だ) こおや (だ) 言うて
な、人のわり (悪い) 事をなあ ユイアルイテナ
ア 歩くかんとおって (居て) 此処で おってもな
あ (居ても) 喋っとても (ていても)。

ゆいおき 【名詞】 1) いいおき 当人が留守などのた
めに 他人に伝えを頼む事 又書き残した物。2)
遺言 (鳥) [会話] 3) ユイオキは 遺言の事やしな
あ (です)。1) 何処やかやい (へ) 行く時でもなあ、
ユイオキしといてかな (しておいて行かなければ)
言うて、わがと (自分が) 何処かえいて (行って)
家のもんな (者が) 判らん事な (が) 有ると、はざ
んよって (いけないから) ユイオキしといてかな
言うて、ほかの人ん (に) こげんしてせえ (こんな
にしてしなさい) 言うて、言うといてくれよお (言
っておいて下さい) 言うて。人な (が) おつたら

(居たら) 言うていて (ておいて) くんの (来るのです)。書いていて (ておいて) 来る時も有んね (有るのです)、そいなのおを (そんなのを) 言うのなあ (です)。何処なら 何処い (へ) いて (行つて) 来るよって (から) 言うてなあ。遺言と ことづけと 両方 有るわけやなあ (です)。

ゆいおきんしょおよおな (ゆいおきんしょうような)
遺言にしたい程で有る

ゆいがみ (ゆひがみ) 【名詞】 結髪 髪を整える事
[会話] 髪の事かい (ですか) 髪も結うなあ 髪結うとる (結っている) と、ユイガミして。

ゆいきかす (ゆひきかす) 【他サ下一】 説明する 説諭する いいかす 教える (志 (布施田))

ゆいきつとる 1) 断言して居る 2) 言い張る (志 (布施田))

ゆいぐさ (言草) 【名詞】 1) いいぐさ 言種 言い草 口に出す言葉 ものの言い方 言い訳 口実 言いがかり 不平不満 (南、熊) 2) 例へ 例へ言葉 [会話] 1) あの ユイグサみよまあ (見なさい) 言うやんかい (言うで有りませんか)。すかん (好かぬ・気に入らぬ) 事言うと なんか (何か) いやみみたいな (嫌味のような) 事言うと あの ユイグサ見よまあ言うて 言う時な (が) あんなあ (有ります)。なんか わり (悪い事) 事、気に入らん事言うと あの ユイグサ 見よまあ、あれそおや無いねのなあ (そうで無いのに) 言うたり、不満に 思う時ん (に) あの ユイグサ見よまあ 言うて。それと一緒で あんな (彼の) せりふ (科白・言う事) 気に入らんで (入らなくて) あの 言う科白 すかんなあ 言うたり、ゆいかたな (言い方・言う事が) すかんなあ 言うたり、あの ユイグサな (が) わりわれ (悪いです) 言う時も有るし (有ります)、言い方な (が) 気に入らんと (入らないと)。

ゆいくさる 言つて居るの卑語 いいくさる

ゆいぐらし 【名詞】 気に掛かつて毎日の様にその事を言つて居る いいぐらし (志 (布施田))

ゆいごと 【名詞】 不平不満

ゆいごとなたえん 色々心配事が続く (志 (布施田))

ゆいごとゆい 【名詞】 勝手なことばかり言う事 いいこといい

ゆいこめる 【他マ下一】 言い負かす 説き伏せる (上、阿) [会話] 1) ユイコメル言うな (のは)、言うて

言うて 言いまくつたんのをなあ (まくつてやるのを) ユイコメル言うね (のです)。ゆいこめられたんよお (のた) 言うて、まあ 口も あかさんよおんなあ (ように) こちらの人な (が) 言い訳しよお おもてもなあ (思つても)。こちらの人には何も 喋らさんとなあ (せずに)、言うて 言うて 言いまくつておこす事を ゆいまくられて。口喧嘩しとても (していても) 相手には言わさんと (さなくて) 自分の事ばつか (ばかり) 言うてすんのを (するのを)、そして 自分が 勝つ言うのを ユイコメル。

ゆいそこねた 1) 言いおくれた 2) 言う言葉を失敗した 間違つて言つてしまった [会話] 1) ユイソコネタてやら (とか) 言う時な (が) 有るやんかい (有ります)、はよこげん (早くこんなに) して言わなはざんのん (なければいけないのに) ユイソコネタ言うて、おくれた (遅くなった) 事をなあ ユイソコネタて言うてなう。

ゆいそこねたて 1) 言いおくれてしまつて ゆいそこねた参照 2) 失言をしてしまつて

ゆいたいごいいい 【名詞】 自分の言いたい事を思慮分別なく言う人 ゆいたいこといい参照

ゆいたいごお 【名詞】 言いたい放題 言い次第 (志 (布施田)) [会話] あれも (彼も) あんまり (あまり) ユイタイゴオばつか (ばかり) 言うとて (言つていて)、一つやつたらな (やつつけなければ) はざんわれ (駄目だ) 言う時も有る。

ゆいたいこといい。ゆいたいことゆい 【名詞】 他人の思惑など考へないで 言いたい放題に言う人 いいこといい 勝手な事を言う人 自分の思う事を遠慮せず言う人 [会話] ユイタイコトユイやなあ (だ) 言うな (のは)、わがと (自分) おもとる事を (思つて居る事を) ばっばっと言う人を あや (彼は) ユイタイゴイユイで わがと おもた (思つた) 事 なんでも (何でも) ざくざくと言う 言うて。人な (が) 気にあたる (障る) とも なんとも思わんと (ずに) ばっばっと言う人なあ (を) あや (彼は) ユイタイゴイ言うて わがと おもた事 なんでも言うねよつて (言うのだから) 言うて よお言うやんかい (よく言います)。

ゆいたいごゆい 【名詞】 自分勝手なことばかり言う事 又その人 [会話] ゆいごとゆいも 一緒や (です) 自分が勝手に 言いたい事ばつか (ばかり) 言うて 人の言うこた (事は) 聞かんと (ずに) 人に

も 喋べらさんと（せずに）自分で言うとんのな
（ていいるのです）ユイタイゴユイ。

ゆいだしべえ【名詞】 初めにその事を言い出した者
（上、阿）

ゆいたったらきかん 一度言ったら後に引かない 自
己主張が強い（志（布施田））

ゆいつけ【名詞】 1) 命令（上、阿、尾）2) 言い慣
れている

ゆいつけとる 言い慣れて居る いつも言っている
いいつけとる【会話】 人のこた（事は）なんも考
えんと（少しも考えずに）いいたいご（言いたい放
題）に 家でユイツケトル。

ゆいつける（ゆひつける）（言付）【他カ下一】 1) 告
げ口をする 密告する 2) 命令する 3) 言い慣
れている【会話】 2) あれもしたれ（しなさい）此
れもしたれ 言うて ユイツケルのおを（のを）言
うの（のです）。おまや（お前は）今日は あれも
せえよお、此れもせえよお（しなさい）畑い（へ）
も行けよお（行きなさい）こえ（肥料）も、もてよ
お（持ちなさい）言うて、畑い（へ）いて（行っ
て）しや（それ）くる（境の草）も 刈つといて来
いよお（ておいて来なさい）言うて、なんもかも
（何も彼も）みんななあ（皆）あれしええ（しなさ
い）これしええ 言うて 言いおったわな（言っ
ていました）そやもんで（それで）なんもかも（すべ
て）ユイツケル言うんやんかな（言うのです）まあ
一つの体で そげん（そんなに）出来よかいなあ
（出来ない）言うて、よけ（沢山）言われるもんで
（ので）。2) あいな（あんな）事ばっか（ばかり）
ユイツケトンネ（ていいるのだ）、言うたよおな事ば
っか 言うとんのをなあ（言っているのを）言い慣
れとるのを（ていいるのを）、言うた事ばっか 言う
とる（言っている）人な（が）有るやんかい（有り
ます）そいなのおもなあ（そんなのもの）。1) かあや
ん（母さま）に言うたらん（言ってやるぞ）言うて
ユイツケル 告げ口を 人に なんやかや（いろい
ろ）言われて 自分だけでは勝たれやへんもんで
（ないので）かあさん（母さま）に味方して貰らう
のに、かあさんに 言うたらん 言うて、あんな
（彼が）イイツケテ、人を わり（悪るい）事ばっ
か（ばかり）言うて いいつけられて わり事ばっ
か（ばかり）言われて 言うのを。

ゆいなぐる【他ラ五】 言い次第言う 言いたい事を盛
んに喋る【会話】 言うて言うて 言いまくって

ゆいまくられる事を言うんやろなあ（言うのでしょ
う）。言うて 言うてまあ 口も あかさんと（さ
ずに）わが（自分の）事ばっか（ばかり）言うて
する人な（が）おるわな（居ます）。人の（が）こ
おや（だ）言うて 言い訳、一つも 聞かんと（ず
に）ユイナグッテおこすの。

ゆいなづけ（ゆひなづけ）【名詞】 許嫁 いいなづけ
（志（御座））

ゆいね 相手の言う値段、売り主の言う値

ゆいの（ゆひなふ）【名詞】 結納（員）

ゆいぶん（言い分）【名詞】 いいぶん 言いたい事柄
主張 文句 言いかかりをつける事 口論【会話】
ユイブン無い しなもんやなあ（品物だ）言う時も
有るし、なんか（何か）ユイブンな（が）あや（有
れば）言わんかい（言いなさい）言う時も有るやん
かい（有ります）。こおこおで こげんして（こん
なに）して すんねけど われとも（貴方も）ユイブ
ンな（が）有ったら言わんかい 言うて、不服な
（が）有ったら言へ 言う事やろなあ（でしょう）。
何か ユイブンな（が）有ったら その時ん（に）
ゆやええけど（言へばよいが）言う時も有るしなあ
（有ります）。自分の おもとる事を（思っている
事を）、言いたいおもとても（思っているても）よお
言わん時な（言へない時が）有るやんかい（有りま
す）、そいな（そんな）時に ユイブン言うんやろ
なあ（言うのでしょう）。おら（俺）も ユイブン
有ったけど（が）よお言わらった（言わなかった）
言うて。ユイブンも無い程ええなあ（よい）言うと。
まあ（もう）こやなつとも（此れはなんとも）ユイ
ブン無いやんかあ（無いで無いが）じっぱ（立派）
で言うて 言う時もあんね（有るのです）。しなも
んな（品物が）よかあったり（沢山有ったり）綺麗
やったり（だったり）よお（よく）出来たりする時
まあ こや（此は）なつとも（なんとも）ユイブン
無いなあ言うて 言うこた（事は）無い 言う事や
ろなあ（でしょう）。

ゆいまくられた 散々に言われる【会話】 ユイマク
ラレタよお（ました）言うて、せんざり（完全に）
言われる事をな。ああでも無い こおでも無い、
あんた（貴方）こおやんない（でしょう）ああやん
ない 言うて言われんのをなあ（るのをです）。

ゆいまくる 十分に言う 言いつのる さんざんに言
う【会話】 無茶苦茶に言うて来る そいなな（そ
んなのは）ユイマクル。

ゆいまげる 言い負かす 説き伏せる [会話] ユイ
マゲラレタ あれん (彼に) あんな (彼の) 口な
(が) えろおて (達者で) 言いまげられた。

ゆいもて 言いながら もて ながら [会話] 小言
ユイモテ 仕事したとか、なんや (なにか) ユイモ
テ くうとるてやら (食べて居るとか) 言うて。美
味いてやら (とか) 味ないてやら うっすいてやら
(薄いとか) こわいわれ (固いです)、なんやかや
(何彼) ごちゃごちゃ ユイモテ 喰うとるてやら
ごちゃごちゃ 小言ユイモテ 仕事しとる (してい
る) 言う時も有るしなあ (有ります)。ユイモテ言
うのも有るけど 泣きもて ユイモテ 喰いもて言
うて うしろい (へ) もて言うて 前の言葉を し
ながら あとの言葉をする 言う事や (です)。

ゆいやい (言合) 【名詞】 言いやう事 口論 口争い
口喧嘩 いいやい (張、度、南) [会話] ユイヤイ
言うな (のは) 喧嘩して いいやいすんのを (する
のを)、口喧嘩しとんのをなあ (しているのを)、ユ
イヤイしとる (している) 言うて。いつ迄 ユイヤ
イしとんねない (しているのだ) 言うて、口喧嘩の
事やわなあ (です)。

ゆいゆい (言言) 何度も繰返して言う事 いいいい
[会話] ユイユイしとるうちに (している間に) 言
うやんかい (言います)。喋べり 喋べり しとる
うちになあ ひょっとして 失言したる (してしま
う) 事が 有るやんない (でしょう)、言わんでえ
え (よい) 事も 言うたる (言ってしまう) 事な
(が) 有るやんかい (有ります)。そお言う事を言
うんなあ (言うのです) 何遍も何遍も 繰返し言
うとるうちに いろんな事言うとるうちん 言わん
でも ええ よおな事を ひょっと言うたる事を、
言うんなあ (言うのです)。

ゆいよ 言い様、話の仕方

ゆいわけ (言い訳) 【名詞】 いいわけ 物事の筋道を
説明すること 失敗などを詫げる事 (南) [会話]
そいな (そんな) ユイワケしたてて (しても) のな
(儂な・お前が) した事 ユイワケな (が) たとか
れ (たたない) 言う時も有るし。ユイワケな (が)
とおるか (通らない) 言う時も有るし。ユイワケ
せな (しなければ) 判らん言う時も有るし、おや
(俺は) こおこおやけど (だが) 相手な (が) 違う
事に 取ったと (てやると) ユイワケせな 判ら
せんもんなあ (判らないから)。

ゆう (湯) (ゆ) 【名詞】 1) 水の温度を上げたもの

2) 風呂 行水 ゆの二拍化した語 (三、鈴郡、鈴
市、亀、一、松、多、阿、張、名、度、伊、北、
尾) [会話] 風呂のユウ (湯) 言うし ¹⁾ 茶のユウ
(湯) 言う、てんどり (茶釜) の 沸かしとけ (て
おけ) 言よったよって (言って居たから) 薬罐の
ユウ、てんどりのユウ かんす (鉗子・薬罐) のユ
ウ、ユウは一緒やけど (だが) 入れもん (物・容
器) が違うだけで。2) ユウあびとんねよお (浴びて
居ます) 言うて 盥で行水すんのを (するのを) ユ
ウ浴びとる (て居る) 言うて、行水しとんねよお言
う人も有るし (有ります)。昔や (は) 風呂な
(が) 無いもんで (ので) ユウ沸かしといて (てお
いて) 畑から来ると あつつて (暑くて) 汗 ぶ
うぶうしとるし ユウ取ってくれ (下さい) ユウ浴
びんのん (るのに) 言うて、今しや (今は) 風呂な
(が) 有るよって (から) すぐん (に) 飛び込むけ
ど (けれど)、昔や 盥で ユウ、沸かしてもろて
(貰って) 浴びて 風呂の代りにしよおったんよっ
て (して居たので)。ユウ沸かさんと (さずに) お
ると 麦 よました (水を含ませた)、おらしさい
た (さし水をした) その汁したためて (しばって) 浴
びると なめなめすんの (するのです)。なめなめ
しとても (して居ても) 水浴びんなあ (浴びるの
は) 夕方やよって (だから) さぶいし (寒いし) 麦
のよまし汁 しばってくれ (下さい) 言うて、今し
や (今は) なんでもかんでも (どうしても) 風呂い
(へ) 入らな (なければ)、そして 行水やどけで
も (なども) しやせんけど (しないが) 昔や (は)
風呂の有る家言うたら無いし、せんと (銭湯) へ行
きや (行けば) 二銭 三銭 出して 行きおったけ
ど (行って居たが) 風呂い (へ) いたてて (行っ
ても) つんどると (混み合って居る) すぐん (に) 入
られやせんやんない (入れないでしょう)。そやも
んで (それだから) 畑から来ると いきなり (すぐ
に) ユウ浴びて そんでええね (それでよいので
す)。赤ちゃん (赤ん坊) が生れた時 盥で おぶ
湯 (うぶ湯) を浴びせる言うて。

ゆう (ゆふ) 【他八五】 言う 喋る 表現する (志、
鳥、桑市、桑郡、三、鈴市、安、津、一、松、阿、
張、伊、北、尾、南、熊) [会話] ものユウ 喋る
事を、ものもゆわんと (言わずに) 言うて、挨拶し
やせんと (しないと) おおた (ああ) あの人 もの
も言わんと 行くんよお (行くのだ) ユウて 道で
おおても (遭っても)。

ゆう【名詞】 柚 ゆず (志 (甲賀、浜島、神明、鶴方、立神)、鳥 (相差)、桑郡、員、三、四、上、阿、張、北、尾、南、熊) [会話] 桃栗三年 柿八年 ユウ (柚) は九年で 梅は すいすい十三年言うやんない (でしょう)。昔や (は) 木な (きいが) 有りおって (有って)、ユウを 味噌ん (の) 中い (へ) 入れると どいらい (大変) 匂な (が) よおて (よくて) 入れよおったけど (入れて居たが) 今しや (今は) ユウやどけ (など) 無いんやろなあ (無い) のでしょう)。店屋 (商店) も いろいろ 違った品種は有るけど (が) ユウやてやら (とか) こじ (蜜柑の一種) やてやら 言うて 昔ののおわ (のは) 無いなあ (有りません)。ユウはなあ かあな (皮が) あつつうて (厚くて) 実は しゅなしゅなみたいんしとんねけど (皺々のようにして居るが) それ 刻んで ちんぴんみたよおん (のように) して 匂な (を) 好くひた (人は) そげんして (そんなににして)。蜜柑のかあ (皮) の きぞだのおは (刻んだのは) ちんぴん言うて、びんへ 入れといて (ておいて) おつけい (味噌汁へ) 入れたり しよおったわい (して居ました)。蜜柑やとか (だとか) ユウやとか 茗荷のこおな (子・芽が) 出て来ると それ きぞで (刻んで) 素麺喰う時は しよおった (して居ました)。しばって 酢の代りん (に) する人も有りおったやろけど (有ったでしょうが)、かぶち (橙) は きず (生酢) しぼりおったけど (しばって居たが)、ユウも しばってしよおったやろなあ (して居たでしょう)。そやけど (しかし) きぞで 匂に 振りかけたり 味噌ん (の) 中い (へ) 放り込んだりしよおった 匂な (が) ええ (よい) 言うて。

ゆう (ゆふ)【結】【他ワ五】 結ぶ くくる [会話] 昔や (は) たあら (俵) ユウのん (のに) 二人ありが (二人が) 両方で 引っ張って 足で ぼんぼん蹴って。

ゆうあかり (ゆふあかり)【夕明】【名詞】 夕暮に残っているほのかな明り 日没後の薄明り [会話] よさり (夜) のあかりの事かい (ですか)。夕方のユウアカリん (に) なって言うて よさがたん (夕方に) なるとなあ。

ゆうあび【名詞】 行水 ゆあみ 湯浴 [会話] 盥へなあ (です) ゆう (湯) 沸かしといて (ておいて) おいたりな、ひなた水しといてなあ (しておいて) あびおったなあ (浴びて居ました)、あんまり (あ

まり) 風呂言うて無い せんと (銭湯) 言うても ふたあとこ (ニケ所) 有りおったね (有ったのです)。ユウアビ言うて 行水や (です)。

ゆうあびる 入浴する、行水する [会話] ユウアビル言うのも ゆうあびやんかい (です)。行水すんのを (するのを) ユウ (湯) アビョヤンカレ (浴びましょう) まあ沸して言うてな、あんまり (あまり) 寒い時やなあ (は) そいな (そんな) 事、出来やせんけどなあ (ないが)、ぬくたい (温かい) 時や (は) ゆう 沸しといて (ておいて) 盥でなあ あびおったなあ (浴びて居ました)。ユウアビョヤ (浴びましょう) 言うてな、はよ (早く) ユウアビンカレ (湯浴びなさい) 言うてな しおった (して居ました)。

ゆうあらし (ゆふあらし)【名詞】 夕方吹く風 あらしは、吹きすさぶ風の意 (大言海) あさあらし参照

ゆういなさ【名詞】 夕方吹く南東の風 [会話] ゆうまぜな (夕方の南風) 吹いて来た。ユウイナサ 吹いて来るよってん (から) 帆まかな (上げなければ) 言うて、夕方ん (に) になると まぜ (南風) や、いなさな (南東風が) 吹いて来んねてや (来るのです)。

ゆうが (いうが)【名詞】【形容詞】 因果 [会話] 荒布かづいて (採って) 畚で舟から あげんのん (上げるのに) 砂 歩ると 熱いし かいだりて (だるくて) なんのユウガやか (か) 思いおった (思っていました)。

ゆうかい 言いますか [用例] そげん (そんなに) ユウカイ こげん言うんやわい (こんなに言うのです)。

ゆうがじん【名詞】 因果な人 貧乏な人 悪い事ばかり続く人 [会話] ユウガジン言うたら、とおさんな (主人が) ぐあいなわりいて (病氣して) びんぼやし (貧乏だし)、そおゆう暮ししとる 人をなあ、可哀相な暮ししとる (している) 人を ユウガジンやなあ (だ) 言うね (言うのです)。びんぼして 金も無いし こらら (子供も) も、おおぜ (大勢) 有って 食わしてくのもえらいし (食べさせて行くのも大変だし) そお言うのを ユウガジン言うね。畑もせんならん (しなければいけない) たあ (田) もせんならん 工場もしとる (している) 父さん (主人) わずろとる (病氣している) わずろとや (病氣していれば) ぜん (銭) も無いし、そげんして 難儀しとる 人をなあ ユウガジン言うね。

子供な (が) のおて (無くて) 難儀するとか 子供が おおぜ (大勢) 有り過ぎて びんぼ して 難儀しとるとかな、又 いろいろの悩み事な (が) 有ったり 心配事な (が) 有ったり 不幸事な (が) 続いたりすると おおた あの人 ユウガジンやな あ (だ) 言う。可哀相な人やな あ (だ) 言う事やな あ (です)。

ゆうぐれ (ゆふぐれ) (夕暮) 【名詞】 夕方 夕方の暮れる頃 [会話] 日の暮れ、日の暮の事を。

ゆうぐれどき (ゆふぐれどき) 【名詞】 夕方日の暮れる頃 日暮の頃 [会話] ユウグレドキも 日の暮れ。ユウグレドキで 御飯したり 支度せんならん (しなければいけない) 時ん (に) 人な (が) 来ると ほん (本当に) ユウグレドキ 人な (が) 来て、忙がして (しくて) 言よおったわな (言っていました)。なんから (なにから) して ええやら (よいのか) 判らせんのん (ないのに) 来て、長話してまあ おぞげやわい (腹が立つ) 言うて 困ったわい (困りました) 言うのを おぞげやわい 言うて。

ゆうけい (ゆふけい)。ゆうけえ (夕景) 【名詞】 夕方暮れ 夕方の景色 [会話] ユウケイを 見いもて (見ながら) 酒 一杯のおで (呑んで) 言うて 縁台で。昔や (は) 縁台言うて 涼み台を 皆 こさえとて (作って居て) ユウケエ見いもて (見ながら) 一杯 飲め言うて、飲む人らは そげんして (そんなにして) 飲んどりおった (飲んで居ました)。夕方の景色 見いもて まあ だんなしやわい (旦那衆です) そいな事 (そんな事) すんな (するのは) やんない (でしょう) 働くもな (者は) 夕景色もなんも言うとらへんけど (言って居ないが)、だんなし の人ら (は) はよ喰うよつて (早く食べるから) するけど (が) 普通一般のもんら (者は) 夕景色や 朝景色や (だ) 言うて 余裕な事しとろかい (して居ません)。

ゆうげえ (いうげい) 【名詞】 遊芸 ゆうげい 遊びごとに関した芸能 歌謡 活け花 茶の湯 琴 三味線 俗謡など [会話] なんやかや (いろいろ) げえ (芸) 持っとる (ている) 人の事かい (ですか)。踊ったり 歌もうとり (歌ったり)、あの人いろいろのげえを ユウゲエ言うのなあ (のです)。

ゆうこく (ゆふこく) 夕刻 【名詞】 夕方 夕方の時刻 [会話] ゆうげ (夕暮) の事をなあ。ユウコク言うの (のです)、そして 夕飯時言うのでもなあ、ユ

ウコクドキに来て言うて 夕飯 食べとる (ている) 時に言うのを ユウコクドキに来て言うて、よお言よおったなあ (よく言っていました)。

ゆうこくどき 【名詞】 夕飯の時 夕方 [会話] 夕方 で 御飯食べとるやんない (ているでしょう)。そすと ユウコクドキん (に) 来て言うてな、ユウコクドキ言うのは 夕方だけやなしん (でなくて) 夕御飯 食べとる (ている) 時も ユウコクドキ言うの (のです)。

ゆうごしやえ 【名詞】 夕飯の支度

ゆうごぜん (ゆうごぜん) (夕御膳) 【名詞】 夕食 夕御飯 ごぜん、御膳 食事 飯を丁寧と言う語 (松) [会話] 夕飯 ゆうめし言うの (のです)、ユウゴゼン言わせん (言いません)。ゆうめし喰を やんかれ (食べよう)。

ゆうこつちや 1) 言える事だ、言えるものだ 2) と言う事だ [用例] 1) あいな事よお (あんな事よく) ユウコツチャ。

ゆうこときかず 【名詞】 人の言う事を聞かないこと 又その人 [会話] 子供らな (が) 言うこと 聞かへん (聞かない) のも、わきまえなのおて (分別が無くて) 此の子な (が) 言うて ユウコトキカズは言うて。

ゆうこときく 言いつけに従う

ゆうざけ 【名詞】 晩飯前の軽い食事 おやつ 三時のおやつ ゆざけ参照 (志 (御座、布施田、片田、浜島)、鳥 (長岡)、度、伊) [会話] ユウザケ。お茶 (おやつ) の事を 昼と夕飯のあい (間) に ユザケ喰わな (なければ) ひいななごおて (日が長くて)。三月中の十日 心無いもん (者) 雇われんな (れるな) 言うて 親方な (が) 心無いもな (者は) 日な (が) なごおても (長くても) 茶 飲めえとも、ユザケ喰ええ (食べなさい) とも言わせんもんで (言わないので) 心無い 親方ん (に) かかるな言うて、心有る 親方やつら (だったら) 此の日のなあがいのん (長いのに) 一服して (休んで) 茶ものおで (飲んで) 言うねけど (言うのだが) 欲な (欲の深い) 親方 一分でも 働かそ (そう) おもて (思つて) そげななんな (そんな気が) 無いやんな (無いでしょう)。そやもんで (それで) 心無い 親方ん (に) かかんな (仕えるな) 言うて。十月の中の十日は 一番日な (が) 短かいもんで (ので) 冬至迄は そやもんで 心無いもん (者) 雇うな言うて、気な (が) のおて (無くて) ぼんたくみ

たよおん (ぼんやりのように) しとるもんは (して居る者は)、日な (が) 短かいねよって (のだから) うっかりしとたら (して居たら) なんも出来やせん (何も・少しも出来ない) おもて 気いもおで (揉んで) する人はええし (よいが) よいやれ ひやれ (気を使わない) そげな (そんな) 気い使わずに 働いとるもんは (て居る者は) 雇たらはざん (雇ったら駄目だ) 言うて。昔の人ら 心ないもん を (者を) 雇うな 十月中の十日は、そすと 三月の中の十日は 心無い人に雇われんな (れるな) 言うて 日な (が) なあがい 時と 短かい時の あれで (違いで)。

ゆうしお (ゆふしほ) (夕潮) 【名詞】 夕方の潮の干満 夕方に満ちて来る潮 [会話] 朝 潮な (が) 干くと ユウシオな (が) かれん (干満の差がない時に) なるけど (なります)。

ゆうずけ 【名詞】 昼食と晩飯の間に食べる間食。ゆざけに同じ (志 (浜島、越賀、布施田、波切))

ゆうた (言) 言った

ゆうた (結) 結った

ゆうたいごい 【名詞】 言いたい放題 自分の思う事を遠慮せずに言う事

ゆうたいごいいいい 【名詞】 言いたい放題に言う人 思う事を主張する人 [会話] わがと (自分が) おもとる (思っている) 事を ぱっぱと 言う人を あや (彼は) ユウタイゴイイイで言うて。わが (自分の) おもた (思った) 事 なんでも ざくざく 言う、ユウタイゴイ言うて 言う。

ゆうたた。ゆうたたね。ゆうたたれ。ゆうたたわい。

ゆうたたわな (女性語)。ゆうたたわれ 言うてやった 言いつけてやった (鳥 (石鏡)) [会話] まあこげん (もうこんなに) ユウタタレ。あした (明日) 来てくれ (下さい) 言うて ユウタタレとか、あしたくんな (来るな) ユウタタレとか言うて。言うた (言った・話した) 言うの (のを) ユウタタレ言うて。あした やめや (だ) 言うて ユウタタレ言うて 伝えた言う事やわい (です)。それをユウタタドオ (言うてやりました) 言うて くんな ユウタタドオ言うて、来いユウタタドオ言うて 伝えたたた (てやった) 言うのを ユウタタ言うて。お互いに 話しとて (して居て) ユウタタ言うのと あんな (彼が) いらん事 (不必要な事) ユウタタネ (のだ) 言うて、告げ口するよおな時も ユウタタ。おんな (俺が) こげん (こんなに) 言うて 言うた

や (言ったら) それを そのにげん (人間に) ユウタタんでわれ (言うてやったそうだ)、それやよって (それだから) あんな (彼が) 怒つとんねてわれ (て居るそうだ) 言うて 告げ口する事なあ (です)。

ゆうたたんでわい。ゆうたたんでわな (女性語)。ゆうたたんでわれ 1) 言ったそうです 2) 結ったそうです

ゆうたて 1) 言ってしまつて 2) 伝えて下さい

ゆうたてくれえ 伝えて下さい

ゆうたや 1) 言えば 2) 結え

ゆうたやろ 言っただろう

ゆうたる 1) 言いつける 告げ口する (志、桑市、三、四、鈴市、度、北、熊) 2) 伝言してやる 3) 結髪してやる 髪を整えてやる [会話] 1) あんな (貴方) そいな (そんな) 事したら わしや (私は) ユウタルに 言うて。人に ふれまあしたる (触れまわしてやる) 事を、ユウタルに言うてな。告げ口する事や (です)。2) わしな (私が) ユウタルに言うて。ことづて (伝言) する時も わしな (私が) ユウタルワイ 言うて 言う時も有るしなあ。わたしな (私が) あんな (貴方の) 代りに言つてあげます言うの わたしな (私が) ユウタルワイ言うて。髪ゆうたろん (結つてやる) 言うて、3) 髪ユウタルのも有るし。

ゆうたるに 1) 言つてあげます 伝言などを伝えてあげます ゆうたる参照 2) 言つてやるぞ 告口をするぞ ゆうたる参照

ゆうたるわい 1) 言つてあげます 2) 結つてあげます

ゆうたれ 1) 言つてやれ (志 (浜島)) 2) 言いました、伝えました 3) 結つてやれ 4) 結びました [用例] 3) ユウタレ ユウタレ (言つてやれ) お母やんの髪を 丁髷に ユウタレ (結つてやれ)。

ゆうだれ 【名詞】 夕風

ゆうたろ 1) 言つてやろう (志 (浜島)) 2) 言へ 言いなさい 3) 結つてあげよう 4) 結びなさい

ゆうたろん 1) 言つてやる 言いつけてやる 2) 結つてやる [用例] 1) とおやんに (お父さんに) ユウタロン。

ゆうたわ 言つて居ました [会話] 今日は何処そこへ 行くね (行くのだ) 言うて、言うたとれ (言っていました) とか ユウタワ とか。

ゆうたんでえ 1) 言ったのだ 2) 言いつけてやる

ゆうたんど 1) 言いつけてやる 2) 言ってしまう
3) 言ったのだ [会話] 2) よけ (沢山) 喋ると
いなん事 (要らぬ事) ユウタンド。

ゆうたんどお 言ったのだ [用例] はじまり (始
め) に、あんな (彼が) ユウタンド。

ゆうて (湯手) 【名詞】湯手拭 手拭 (志 (御座、布
施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥
(国崎、答志) 上、阿、張、名) [会話] ユウテ言
うな (のは) 手拭を ユウテや (だ) 言うて。ユウ
テ 持たんと (ずに) 風呂 入りん (に) 来て言う
て。今しや (今は) タオル持ったか 風呂いんのん
(入るのに) 言うて 言うんけど (言うのだが)。
昔や (は) ユウテや (だ) 言うて、木綿手拭。タオ
ル言うな (のは) わしらな (私達の) 若い頃に は
やって来ただけや (だけです)。子供の時分 (頃)
タオル言うな (のは) 無かったの (のです)。タオ
ル 西洋てのぎや (だ) 言うて 西洋てのぎな
(が) 流行って来たんでわれ (来たそうだ)、おら
も (俺も) あいなのな (あんなのが) 欲しなあ言う
て。若いしゅん (衆に) なって来てから 西洋ての
ぎな (手拭が) 流行って、磯 (海女作業) 行くと
磯から 上って来て それ 鉢巻ん (に) すると
しじくな (雫が) 頭から 流れてくんのな (来るの
が) それい (へ) 吸い込んだて (でやって) 流れて
こんで (来なくて) どいらいええねよお (大変よい
のです) 言うて。磯 行くと 鉢巻したり、ほっか
ぶりん (頬かぶりに) しても ぬきたいやんな (暖
かいでしょう) タオルは、木綿より。そやもんで
(それで) しおとりや (だ) 言うて、そんな (それ
が) 流行って来たおや (折に・時に) しおとりに
買をやかあ (買いましょう) 言うて。そしたり
(そうしたり) へちまてのげや (だ) 言うたり、へ
ちまみたよんしとるやんない (のようにして居るで
しょう) へちまてぬげな (が) 流行って来たんよお
(来ました) 言うて。昔や (は) 木綿の被るのおを
(のが) 古なつたのを ユウテンすや (にすれば)
ええわれ (よろしい) 言うて 被んのん (被るの
に) ちょいと (少し) 色な (が) 黒なって来た、被
んのん ちょいと わりよって (悪いから) こや
(此れは) ユウテンすや (にすれば) ええわれ言う
て わりなあ (悪いのは) そげんしよおったね (そ
んなにして居たのです)。風呂い (へ) もてくだけ
(持って行く) の手拭やなしん (でなくて) 顔も拭
いたり、顔 拭くのん (に) 流し (流し場) に 竿

な (が) 掛けて有って それい (へ) 顔 拭いて
掛けて そして 風呂入りん (に) 行く時や (は)
ユウテ 持ったか言うて しよおったの (して居た
のです)。そして (そおして) その ユウテも 一
つで やうちな (家族一同が) 拭きおったね (拭い
て居たのです)。それ めんめん (面面・各人) 一
つつ (一ヶ宛) こや (此れは) おんなね (俺の
だ) 言うて 今しみたよん (今のよう) 別々ん
(に) しよおかい (しません)、一つんのおを (一
つのを) みんな (皆) で 顔も拭いたりしよおった
の。そやよって (だから) 一人 とんとめ (結膜
炎) すると みんなな (皆が) 移つて とんとめ
移つんど (移るぞ) 言うて したてて (しても) て
ぬげい (手拭) 一つん (に) するもん (するから)
移るわい (移ります)。

ゆうて 言うて

ゆうてええ。ゆうてえな 言うて下さい、伝えてくだ
さい

ゆうてきかす 言い聞かす 説明する (阿、張、名)
[会話] ユウテキカス。意見する言う事もなあ、子
供の事なら そや (それ) おつちやく (横着) した
らはざんど (いけない) とか、どこそこの こお
(子) 撲ったんよお (撲ってやるな) わり (悪る
い) 事すんなよお (するな) 言うて 聞かす事をな
あ ユウテキカス。

ゆうてくれ。ゆうてくれえ 言うて下さい 教えて下
さい

ゆうてくれんな 言わないで下さい 言うな

ゆうてしもた 言うてしまった

ゆうてたもれ 言うて下さい

ゆうてたん 言うて下さい [用例] あした (明日)
一杯やろや (酒を飲みましょう) 言うて、〇〇に
ユウテタン。

ゆうても 言うても [用例] なつと (何と) ユウテ
モ 聞かせん (聞かない)。

ゆうと 【接統詞】1) 例えば 2) そうすると 3)
言えば [会話] 2) そいな (そんな) 事言うたら
(言ったら) いけません言う事、そいな (そんな)
こと ユウト はざんわれ (駄目だ) 言うの (ので
す)。1) 言うて見ると言う、例えて見ると言うのを
ユウト言うて 例える事もなあ (です) ユウト言う
の。

ゆうど 1) 言います きつと ユウド 2) 言う事
だ あいな事よお、ユウド。

ゆうというて 1) 言ったのに、言って居たのに 2)

言って下さい、伝えて下さい

ゆうとた 言って居ました [会話] 喋っとた (ていた) 事をなあ (です)。まあ なんやかや (いろいろ) あんたな (貴方の) 事、ユウトタワイ (です) 言うの (のです)。わり口 (悪る口)、言うとても (ていても) ええ (よい) 事言うとてもなあ、あんたな こおこおで あの人あ (は) 賢しこいなあと か なんとか言うとる (言っている) 時でも、こげんして (こんなにして) ユウトタワイ 言うし、わり事、ユウトタ時でも あんたの事 ま せんざり (沢山) わり (悪るい) 事 ユウトタワイ 言うて、ええ事、言うても、わり事、言うても その人な (が) 喋っとんの (ているのを) こっちやな (こちらが) 聞いて来た 場合にな ユウトタワイ言うの な。

ゆうとた 結って居た

ゆうとたれ 言って言ました ゆわれ (言) 参照 [会話] 言っていました言う事を ユウトタレ言うたりな。

ゆうとたれ 結って居ました

ゆうとたわい。ゆうとたわな (女性語)。ゆうとたわれ 言って言ました [会話] 今日は 何処そこい行くね (行くのだ) 言うて (言って) ユウトタレとか、ユウトタ、ユウトタワイとか。ユウトタワイ言うのも ユウトタも ユウトタレも 一緒や (です)。ユウトタレ言うのは わり (悪るい) 言葉やんかい (です) 汚い言葉やなあ (です)。したし (親しい) 人ん (に) 言う言葉やわな (です) ユウトタワイ言うのは ちよっと (少し) てえねん (丁寧) な事や (です)。

ゆうとたわい 結って居ました

ゆうとる 1) 言って居る 2) 結って居る

ゆうとるわい。ゆうとるわな (女性語)。ゆうとるわれ 1) 言っています 2) 結っています

ゆうとんね 言って居るのだ [会話] あんな事ばっか (ばかり) 言って居る言うのを、あいな (あんな) 事ばっか 言うとて (言っていて) 言うて言うね (言うのだ) とか、言う人も有るし ユウトンネ言う人も有るしなあ 同じ事やけど (だが)。

ゆうとんね 結って居る

ゆうな 1) 言ってはいけない 2) 結ってはいけない

ゆうなぎ (ゆうなぎ) (夕風) 【名詞】 夕方に海上の波

風の静かな時 陸風と海風の交代する時に起る

ゆうね 言っている、言うのだ [会話] あげん (あんなに) ユウネ、おらまあ (俺は) こげん (こんなに) ユウネ、あの人な (が) こげん言うとた (ていた) 言うて ユウネ ま 人らん (に) 言うて 人に言います、おらまあ (俺は) ユウネ言うのなあ (です)。あいな事ユウネ言う時は、言っている あいな (あんな) 事ばっか (ばかり) 言うとて (ていて) とか、ユウネとかなあ。人に依ってなあ ユウネ言う人も有るし、ゆうとて言う人も有るし、ゆうとんね言う人も有るし 同じ事やけど (だが)。

ゆうね 結っうのだ

ゆうねやれ 言うのだ

ゆうねやろかい 言うのでありません 言うのは違って居ます [会話] そおやない (そうでない) そおやないね (そうでないのです) 言うのを、そおやろかい (違います) 言うて、ユウネヤロカイ言うて。

ゆうばれ 夕晴 【名詞】 夕方空の晴れる事

ゆうびえ (ゆうびえ) (夕冷) 【名詞】 夕方になって来ると 冷えること 冷える感じ [会話] よさりん (夜に) なって 冷えて来ると、ユウビエ言うね (のです)、夕方ん (に) なると 冷えて来るもんで (ので) さぶなって (寒くなって) 来るもんで なあ (ので)。

ゆうびん (いうびん) (郵便) 【名詞】 手紙 (志) [会話] ユウビンさん ユウビン配達、手紙な (が) 来た言うの (のを) ユウビンな (が) 来た。

ゆうびんさん 【名詞】 郵便を配達する人、ゆうびんや 参照

ゆうびんばこ (郵便箱) 【名詞】 1) 郵便ポスト 2) 各家の郵便受けの箱 [会話] 2) ユウビンバコ言うと 手紙を入れる あの箱を ユウビンバコや (だ) 言うて。1) ポストの事を ユウビンバコ 入れといて (ておいて) 来い言うて ポストを言よおったなあ (言っていました)。わが家の 掛けといて (ておいて) あんのも (有るのも) ユウビンバコや (だ) 言うし。

ゆうびんや (郵便屋) 【名詞】 郵便の集配をする者 [会話] 今し (今) の 郵便配達の人を ユウビンや言うて、ユウビンサン言よおったなあ (言ったのです)。“ユウビンサン、走らんせ 時間な切れたら 罰金や 罰金どころか 赤じばん” 言うて かまいおつたの (からかいました) ユウビンサンに。

ゆうほ (いうほ) 【名詞】 遊ぶこと 休憩 遊歩 ゆ

うほのじかん参照

ゆうほのじかん【名詞】学校の休憩時間 [会話] ユウホノジカンだ言うななあ (言うのは) 一時間して半時間遊ぶ時間な (が) あるやんない (有るでしょう)。それ ユウホノジカンだ言う。ユウホノジカンになったら どこそこい (に) いて (行つて) 遊びや (遊びましょう) 言うてなあ。勉強終わると こんだ (今度は) ユウホノジカンや (です)。外い (に) いて (行つて) 遊びや 言うて、一時間勉強すると 半時間 ユウホノジカン有るやんない (有るでしょう)。そのあい (間) に 外い (に) 出て みいろ (鬼ごっこ) したり、石蹴り したり 輪転器まあしたり (回したり)、ゆうろえんぶく (遊動円木) 言うのな (のが) あって、それい (に) 登ったり ユウホノジカンにやなあ (には) そげんして遊びおったの (そんなにして遊んで居たのです)。ぶらんこな (が) あって わしら (私は) 寺の屋根な (が) めえる (見える) まで言うてな 東の時や (は) 寺の屋根な (が) めえた (見えた) 言うて、ぶらんこのりよおった (乗って居ました)。ゆすつて 一番よお (よく) 乗りおったんよお (乗って居ました) 端い (へ) まで どてい (土堤に) つかえるほど。ぶらんこ 上手なかつたね (上手でした)、おっちゃんかかつたんなあ (横着でした)。ユウホノジカンになると なん (何を) して遊ばなおもて (遊ばなければ思つて) きゅうくれ (急ぐ) しよおったんなあ (しました)。婆やんな (さんが) チンチン 鳴らしておこして (よこして) チンチン鳴った はよ (早く) 走れ言うて 遠いとこ (所) いとると (行っている) 一生懸命走つてなあ。ユウホノジカンは 今の休憩時間 休憩や (です) ユウホノジカンとか あいの時間とか言いおった (言っていました)。

ゆうまい 言わない 話さない 言いません [会話] ユウマイ言うんかい (のですか)、言わまい言うのを、あいなこた (あんな事は) ユウマイやねえ (でおきましょう)、言わまいやねえ 言うのをな。

ゆうまづみ【名詞】夕方の薄明るい頃 日暮れがた たそがれ (志、鳥 (国崎、石鏡)) [会話] ユウマズミ言うな (のは) 打網い (へ) 行くと、ユウマズミ 打ちん (に) 行くのん来いよお (来なさい) 言うて 今どき (今頃・三月頃)。“三月 いなだの腹へらし” 言うて 今どき いなだな (魚名が) わくねてや (群をなして来るのです)。夕方ん (に)

なると その夕方の いなだ 獲りん (に) 行くのん (に) 来いよお 言うて。かいまづみで 夕方の ちろちろ (薄明る) の 日な (が) 落あいの時ん (に) のんねやろなあ (乗るのでしょう)、早よ (早く) いなだわいたよつて (群れが来たから) 来いよお 言うて 行きおったの (行っていたのです)。かいまづみやどお (だ) 言うて、そして 魚釣る人らも かいまづみかけて (目がけて) 釣りん (に) 行く人らな (が) 有るやんかい (有ります)。夜釣りする人らな (が) 朝の夜明けとか 日の落ちやいに よお喰うんやんかい (よく釣れるのです)。わしら (私達) 朝鮮で 磯な (が) 休みのおや (折は・時は) 今日 わが (笠子) かけん行こやんか (釣りに行きましょう) 言うて 行くね (行くのです)、そすと (すると) 夜明けん (に) なると 面白い程 こずの (疑似餌) で きゅつとすると 養んなつて来て (連なつて釣れて来て) ばらっと置くと こずの から離れて 又 餌ささんと (ささずに) こずので 引っ掛けんねやんかい (るのです)。そすと (すると) 磯桶 はんぶ (半分) 位つ 引っ掛けて来て それ こさえんのんよわんなあ (調理するのに弱る・困る) 言う程 かいまづみに 朝の夜明けになると 喰わえんの (へます・釣るのです)。そやもんで (それで) じよおし (漁師) の人らは かいまづみする人らは 夕方かけて行く人らと 朝はよ (早く) 行く人らと有るやんかい (有ります)。朝と 夕方と いりやい (入り合い) と でやい (出合い) と あの日の 加減な (状態が) ええんやろなあ (よいのでしょう) 魚の浮いてくんのな (来るのが)。ユウマズミはかいまづみやんかい (です)。

ゆうまぜ (夕南風) 夕方吹く南風 [会話] 浜い (へ) 来ると まぜな (南風が) 吹いて ユウマゼな (が) 吹いて来ると どんどこんや (だ) 早よ いけえ (早く行きなさい) 言うて。

ゆうまま (ゆふまま) 夕飯 晩御飯 (桑市)

ゆうまま (言儘) 言いつけた通り 言った通り

ゆうめし (ゆふめし) (夕飯)【名詞】夕方に食べる御飯 晩飯 [会話] 夕御飯の事 ユウメシ 夜の御飯の事 晩御飯の事。

ゆうめしどき (ゆうめしどき) (夕飯時)【名詞】晩御飯を食べる頃 [会話] 夕飯の時ん (に) 来ると、ユウメシドキ言うの (のです)。ユウメシドキん (に) まあ あの人な (が) 来て 忙がしのおに

(のに) 言うて、夕刻時や (だ) とか言うてな、夕刻時ん (に) 来て言うのもな ユウメシドキん (に) 来て言うばやい (場合) も、あるんやんかい (有るのです)。晩御飯の時ん (に) 来て言うて。御飯 食べるとなあ (ていいると) そいな (そんな) 時も言うんやろなあ (言うのでしよう)、夕刻時言うのは 夕方言うだけやなしん (でなくて) 夕御飯 食べとる時も 夕刻時言うの (ののです)。昔や (は) 食べるもんな (物が) わり (悪る) かったやんない (でしよう) それやもんでなあ (それなので) 飯時ん (に) 人な (が) 来ると どいらい (大変) 来なええのん (来なければよいのに) 思いおったわな (居ました)。食べるもんな (物が) わりもんで (悪るいので) 恥かしんやんかな (いのです)、そんで (それで) 夕刻時ん (に) あの人な (が) 来てなれ みとみなかったんよお (見苦しかったです) 言うねやんかい (ののです)。食べるもん (物) 芋飯ばっかなあ さい (副食) も だいこ (大根) 漬けだけしか (より) 無いしなあ、なあ (菜) 漬けなら 菜漬けを 井い、井ならええんけど (よいが) 子供の多い家や (は) 摺り鉢の大きなのな (のが) 有って、それい胡麻すって 菜漬け切って その摺り鉢で まめんでやんない (混ぜてでしよう)、それ みんな (皆) に もったた (よそった) 後の摺り鉢に ついたのおも (のもの)、勿体ない言うて その 摺り鉢の後い (へ) 御飯入れて まめんで (混ぜて) そげんしてしいおったもん (そんなにして居たのです)。

ゆうや【名詞】 湯屋 銭湯 大衆浴場 (津) [会話] 風呂屋の事かい (ですか) ユウヤ言うて。せんと (銭湯) 言いおったなあ (言っていました) せんと いこや (銭湯行きましょう) 言うて 風呂屋い (へ) いこや とか、せんと (銭湯) 言う方な (が) 多かったなあ。

ゆうやがな 言うでしよう [会話] あや (彼は) 無垢なねよって (なのだから) ユウヤガナ。

ゆうやんかい 言います [会話] 朝の起きがけん (に) ユウヤンカイ、朝起きる前に しょんべしん (小便しに) 起きたら 寝やれんで (寝れなくて) 言うて。

ゆるい ゆるい しまっている おだやかだ

ゆるう。ゆるうう【形容詞】 ゆるく [会話] 帯でも ユウルウしとると (していると)、すっこ けてくない (ずり落ちていく) そやあれ (それ) 言

うて。

ゆうれん (いうれん)【名詞】 幽霊 お化け ゆうれいの訛 (志 (布施田、片田、越賀、浜島、甲賀、国府)、桑郡、三、員、鈴市、安、津、松、多、上、阿、張、名、度、伊、尾、北、南、熊) [会話] ユウレン。ユウレンな (が) 出んねてわれ (出るそう) だ 言うて。今しゃ (今は) お化け言うんけどなあ (言うが)、昔や (は) ユウレンな (が) 出んねて ない (出るそう) だ あしこい (あすこへ) 言うて。子供の時分にや (頃には) 電気も なんもねえし (なにも無いので)、便所い (へ) 行くや (行くの) だ 言うて そや (それ) ユウレンな (が) 出てくんど (来るぞ) 言うて、兄弟同志で おどしやい (脅かしあい) して おとしよお (怖い) 言うて 提灯持ちたので (頼んで) 便所い (へ) 行きおった (行きました)。そや (それ) はよ (早く) 提灯持ってくれ (下さい) 言うて、早よ なことおや (仲人親) 頼まなはざんわれ (なければいけい) 言うて、なことおや 提灯つけるやんない (でしよう)。昔、便所い (へ) 行くの (のは) 遠いやんかい (です)。昔の便所や (は) やしきな (屋敷・土地が) 広いと 便所や (は) 離れたとこい (所へ)、隠居と せんち (便所) は遠いが ええ (よい) 言うて、昔の人らは 便所な (が) 臭いよって (から) 隠居も ちっかいとこんおると (近い所に居ると) 喧嘩するもんで (ので)、隠居と便所は 遠いな (が) ええ 言うて、昔や (は) 皆 家の端の方い (へ) 便所しよおったわい (作って居ました)。

ゆうろおえんぶく (ゆうろうえんぶく)【名詞】 遊動円木 [会話] ユウロオエンブク言うのな (が) 有って それい登ったり。

ゆうわい 1) 言います ゆう 言う いふ 声を出して単語や文を発する 音声又は文字に書いた文章で考へ方や事柄を表出する。2) 伝えます [会話] 1) あの人な (が) どげなや (どんなのだ) こげなや (こんなの) だ 言うて ユウワイ 言うて。相手な (が) 言う事を あの人な (が) 今日は 誰それな (が) 来んね (来るのだ) 言うて ユウトタワイ (言って居ました) とか、ユウワイとか言うて。2) そして (そうして) こげん (こんなに) 言うてくれ (へ) (下さい) 言うたや (言ったら) はい ユウワイ 言うて、言う時も有るしなあ (有ります)。言うとった (言って居た) 言うのを ユウトタワイ言うて。あの人んも (にも) そげん (そんなに) 言うたてく

れえ (てやって下さい) 言う、ユウワイ言うて
伝へる言うのなし (ですし)。そして (そして)
誰それな (が) 今日は 何処そこい (へ) 行くね
(のです) 言うて 言うとたれ (言って居た) とか
言うとわ (言って居た) とか ユウワイとか。

ゆうんことかいて 言っではいけない事を言う 失言
する (志 (布施田))

ゆうんどい 言うのですか [会話] どげんして (ど
おして) そいな (そんな) 事 ユウンドイとか、な
として (何故に) そげん (そんなに) ユウンドイと
か。

ゆうんやんかい 言うのです [会話] 朝起きがげん
(に) しょんべしん (小便しに) 起きたら 寝やれ
んで (寝れなくて) とか言うて、おきがけ言うの
(のは) そいなの (そんなのを) ユウンヤンカイ。

ゆお【名詞】魚 いおの訛 (志 (片田)、鳥 (答志)
員、鈴市、津、伊、南) [会話] 魚の事 ユオ言う
て、ユオな (が) 揚がって、ユオもろて (貰って)
言うて、言うなあ (言います)。いお (魚) 言わん
と (言わずに) ユオな (が) 揚がって言うて、ユオ
な 好きで おれげ (俺家) の このかあ (子は)
言うて。

ゆお 1) 言いなさい 2) 言います

ゆおお 祝う

ゆおかい 1) 言いません 2) 言いましょうか
[用例] 1) 滅多ん (に) ユオカイ。2) おんな (俺
が) あれん (彼に) ユオカイ。

ゆおけ (ゆをけ) (湯桶)【名詞】1) 入浴時に用いる
湯を入れる小さな桶 2) 浴槽 [会話] 2) 桶、桶
風呂ののおも (のもの) 有るし、1) そして風呂する
(入る) 時ん (に) ゆう (湯) 汲むのおの (の
の) 桶もユオケ、風呂に使う桶な (が) まるくたい
(丸い) 竹のわあ (輪) で 結うて有りおったわい
(有りました) 風呂桶な。

ゆおてもらう 祝って貰う (志 (布施田))

ゆがく (湯掻)【他カ五】ゆでる 野菜など熱湯を通
して柔らかくする (志 (布施田)) [会話] 人参の
したしや (ひたしとか)、なあ (菜) のしたしや
言うて、ユガイトイテ (ておいて) 醤油ですんのを
(するのを) したし (ひたし) 言うて。

ゆかずき【名詞】午後からの海女作業 [会話] 朝か
ずき なんも (全く) はざんかったよって (駄目だ
ったから)、ユカズキ 大漁せな (しなければ)。

ゆかずごけ (不嫁後家)【名詞】嫁に行かないで年を

取った女性 いかずごけ [会話] 一つ (一度) も
嫁ん (に) 行かせんの (ないのを)、おば (独身)
でおんのなあ (居るのを) 一遍も 結婚せんと (せ
ずに) おんのをな ユカズゴケ。

ゆがむ (歪)【自マ五】曲る 正しい形からずれる

ゆがめる (歪)【他マ下一】1) ねじ曲げる 正しく
ない方に向かわせる 2) ひねくれる 心や行ない
を正しくなくする

ゆかわ【名詞】瓢箪

ゆかわじる【名詞】瓢箪を味噌汁の具にしたもの
[会話] ユカワジル 瓢箪を ユカワ言うね (言う
のです)。

ゆかん (ゆくわん) (湯灌)【名詞】納棺 仏葬で 死
体を棺に納める前に 湯で清める事 ユカハアミ
(湯川浴) の転 (広辞苑) (志 (布施田)、張) [会
話] 死んだ人を えごと (充分に・よいよう
に) 拭いて、着せて 棺の中い (へ) 入れる時ん
(に)、ユカンせな (しなければ) はざんわれ (い
けない) 言うて。時間な (が) 朝 そや (それ) 夜
な (が) 明けて こんうちん (来ない間に) まあ
くやみどな (弔問客が) こんうちん ユカンもせな
はざんわれ 言うて。

ゆきあう (ゆきあふ) (行合)【自ワ五】1) 互に同価
値である 釣り合う 2) 出合う

ゆきあし【名詞】行こうとする態度 [用例] ユキア
シかかえとる (行きたくてたまらない)

ゆきき (往来)【名詞】いきき 行く事と来る事 交
際

ゆききしとる 親しくつき合って居る

ゆきさき (行先)【名詞】行く先 目的地

ゆきすぎ (行過)【名詞】【形容詞】程度を越えて居る
身分以上にふるまう

ゆきすぎとる 身分以上に振舞って居る

ゆきちがい (ゆきちがひ) (行違)【名詞】いきちがい
行き違う事

ゆきづまり (行詰)【名詞】1) 行きて前に進めなく
なる事 2) 仕事に支障が出来て涉らなくなる

ゆきどまり【名詞】行く先が塞がってそれより前へ進
めなくなる事

ゆきぬけ (行抜)【名詞】【形容詞】いきぬけ 通り抜
け 行くのに止まる所が無い

ゆきひら (行平) (雪平)【名詞】取っ手 蓋 注ぎ口
の有る陶器の平鍋 粥などを煮るのに用いる。昔
在原行平が須磨で海女に潮を汲ませて 塩を焼いた

故事に基づく 本来は塩を焼くための物を言う。

(志 (浜島、鵜方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、桑市、員、松、多、上、阿、張、北、尾、南) [会話] ユキヒラ言うて てえ (手・柄) が つuitて (付いて居て)、口な (が) かたくちん (片一方に) なつて (なつて居て)、そして (そうして) 具合なわりと (体の調子が悪いと) はよ (早く) ユキヒラで お粥炊けとか おじや炊けとか、ユキヒラの飯や (は) 美味ないな言うて、ぐちゃぐちゃして (して居て) 美味ないんなあ (美味くないのです)。そやけど (しかし) 病気ん (に) になると その、ユキヒラで 飯 炊きおったわい (炊いて居ました)。昔や (は) 芋や麦ばっか やよつてん (ばかりだから) ちよいと (少し) ものぐさい (病気) 時や (は) そのユキヒラで お粥炊くとか おじや (雑炊) 炊くとか 別鍋炊くのをユキヒラで炊きおったわい。別鍋 喰とんねよお (食べて居るのです) 言うて、そやけど (それだが) 水引きな (が) わりやんない (悪いでしょう) 炊いても 水な (が) 引いてかせんわい (引いて行きません) ユキヒラは、水引きなわりて (悪くて) 鍋の飯みたよおん (のように) さらつとならせん (なりません) ぐちゃぐちゃして (して居て) ユキヒラの飯や (は) 美味ないなあ 言うて、おびや い行ても (産屋へ行っても) 炊いて 喰う時な (が) 有りおったやんない (有ったでしょう) そやけど (だけど) ユキヒラの飯や (は) 美味ないなあ 言うて、釜の飯や (は) 美味いけど (が) 言うて、具合な (が) わり (悪い) 時や (は) ユキヒラやな あ (です) 昔や (は)。

ゆくさき (行先) 【名詞】 1) 今から行く方面 いくさき 目的地 2) 将来 前途

ゆくすえ (行末) 【名詞】 いくすえ 将来

ゆげ (湯気) 【名詞】 熱い湯や 食物から立ち登る水蒸気 いげ (志、島、桑市、員、四、鈴市、安、津、一、松、多、阿、度、伊、北) [会話] なんやかや (いろいろ) 炊くと ユゲな (が) 出てなあ。ゆう (湯) 炊いても (沸かしても) ユゲな (が) 出る、おかず炊いても ユゲな (が) 出るやんな (でしょう) あれを ユゲ。

ゆけぶり 【名詞】 湯煙 湯気 温泉 風呂などから湧き上がる湯気 けむりの訛 [会話] ユケブリ 言うて 風呂の中の けぶりな (煙です)。あたたいと (熱いと) しとるやんかい (しているのです)。

あやれ (あれ) ユケブリな (が) 立つとんない (立っている) 言うて 言うけどなあ (言います)。他ののおで (のでも) こお ぼおぼおしとると (していると) それ 例えて言うなあ、ユケブリな (が) 立つとるよおななあ (ているようだ) 言うて、ゆげな (が) よおけ (沢山) 立つとんのをなあ (ているのを)。

ゆこお (ゆかう) (衣桁) 【名詞】 いこ 衣桁 着物を掛けておく家具 細い木を鳥居形に組んだもの。(員、鈴市、松、多、上、阿、伊、北、尾、南、熊) [会話] いこおやてやら (だとか)、ユコオて やら言うけど (が)、ほんとの (本当) 言葉 どっちゃかいなあ (どちらだろうか)。わしらは (私は) いこおい (へ) 掛けとけ (ておけ) 言うけど。着物 かけんねよつて (掛けるのだから) 衣桁な (が) ほんとやろ (だろう) 思うねけど (思うのですが)。

ゆさおけ 【名詞】 乳幼児を入れておくゆり籠 ゆさは、ゆさぶり (揺) の下略 (大言海) (志 (布施田、片田)、伊賀地方) [会話] ユサオケから 出ません 言うて、子供でも危ないと、飯 喰ううち (間) ユサオケい (へ) 乗せとけ (ておけ) 言うて、昔や (は) しよおったわい (して居ました)。子守するための いれもんやわい (容器です)。籠でも桶でも有ると それい (へ) きもん (着物) や、なんや しいといて (敷いておいて)、それい こお (子・子供) 放り込んどいて (でにおいて) 飯 喰ううち ユサオケい (に) 乗せとけ 言うて、今して言う (今で言う) と ベビーサークル言うんかい (言うのですか) その代りや (です)。ユサオケい (へ) 入れとけまあ (ておきなさい) 言うて。

ゆざげ 【名詞】 一般には食事と食事の間の小食の意味で有る 日本では古く、常食は一日二回即、朝食 (あさげ) と夕食 (ゆうげ) だけで有ったが、農夫、工人など労役に従事する者が労働の程度や晝夜の長短に依って食事と食事の間に一回乃至数回小食を取った 此れが間食で有る 鎌倉時代以降 此れを中食→晝食と呼ぶようになって一般化された。漁夫海女などが午後の作業の後 夕食までに少量の食事を取る事 夕食 小食 こびる ゆうざげ ゆうけ→ゆうげ ゆうごぜん参照 (志 (御座、布施田、片田、立神)、島 (長岡)) [会話] ユザケ 言うのは、あい (間) 昼と晩 お茶やわい (お茶です)。ユザケ 言うけど (けれど)、御茶や (だ) 言うて、お茶の時

間や(だ)言うて。あい(間)に食うのな(食べるのです)。そやけどな(しかし)、昔の人は ユザケ食をや(食べましょう) 言いおったんよお(言って居たのです)。

ゆざまし(湯冷)【名詞】湯を冷たくした物

ゆざめ(湯冷)【名詞】入浴後は皮膚の血行が拡張し、熱放散が強いが、これが長びき過放散になって 寒気を感じる状態(志(布施田)) [会話] ユザメ言うな(のは)風呂入いると、いつ迄 起きとると(していると) さぶなって(寒くなって)来るやんない(でしよう)、それを ユザメや(だ)言うてな。まあ はよ寝やな(早く寝なければ)ユザメナ(が)ノミンクンド(に来るぞ)言うて こららん(子供達に) 言よおったね(言って居たのです)。ユザメ言うのは 風呂上りの ぬくとお(温かい)ほこほこしとんのな(しているが)冷めて来てすんのを(するのを)。そすつまあ よお(よく)ユザメな(が)して 風邪引いた言うて 言いおったんなあ(言っていました)。風呂いって(入いて)いつ迄 起きとると(していると) さぶなって来るやんかな(寒むくなって来ます) そやよって(だから)ユザメな(が) こんうちん(来ない間に) はよ(早く)寝よ はよ寝よ言いおったわな(言っていました)。そして 言う事聞かんと 寝やんと(寝ずに)おると ユザメナノミンクンド 言いおったの(言っていたのです) 風邪引くど(ぞ)言う意味やけどな(だが)。

ゆざめのみんくんど 湯冷めするぞ 風邪を引くぞ
ゆざめ参照

ゆさん(遊山)【名詞】幾人かで遊びに出ること [会話] ユサンに行く言うなだ(のは)遊びに行く言う事を、花見に行くとか ちょいとした(少しの)旅行いなあ(へ)お伊勢参りに行くとかなあ、言うのを まあ ユサンにいてこおか(行って来ようか) 言いおったなあ(言っていました)。ユサンにいてこい(行って来い) そこらい(その辺に)言うて。

ゆずう(ゆづう)【名詞】融通 [会話] ユズウな(が) つかんで(つかなくて)言うて、なんやかや(いろいろ)此れ 譲づつて呉れ(下さい)、此れ借してくれ 言うても いやいや 借されん(ぬ) 呉れられん(あげられない) 言うて、一つも ユズウな(が) 効かん(のを)なあ言うのなあ。ユズウな(が) 効かせん(効かない) 言うの(のです)。あ

の人ん(に) なんたのだててなあ(なに頼んでも) ユズウな(が) 効かれ(効くものか) 言うて、なんも(少しも)聞いてくれやへん(くれない) 事なあ(です)。人に 一つも便利な事 してくれやへん(してくれない) 人やわな(です) ユズウな(が) 効かん人言うのは。

ゆすぐ(濯す)【他カ五】ゆり動かして汚れを洗う
すすぐ 洗濯の際、最後にきれいな水ですべて洗い流す事(志(神明、布施田、鵜方、甲賀)、鳥(加茂)) [会話] ユスグ。洗濯を 水代えて 幾くら(何度)も 綺麗んすんの(にするのを) ユスグ。ゆすぎな(が) わり(悪い)と 石鹸の泡な(が)出てくんど(来るぞ) 言うて。今しや(今は) せんだっこ(洗濯粉・洗剤)を よけ(沢山)入れるもんで(ので) せんだつき(洗濯機)で するけど(が) 盥で する時分にや(頃は) 幾らあろても(洗っても) 泡がいて来よおつて(泡が出て来て居て)。

ゆずくる 揺する ゆり動かす(上、阿、度)

ゆすらんめ(英桃)【名詞】ゆすらうめ 中国から渡来して 庭木として植えられ、果実は食用にされる低木 パラ科 高さ三米位になってよく枝をわかし若枝は葉の下面と共に密に毛が有る。葉は倒卵形で長さ五〜七糎 へりに重歯がつき毛の密生した柄が有る。花は春開き 径一・五糎 短かい柄が有り、淡紅 白色 五弁 果実は径 一糎 紅色に熟し食用になる。(志、鳥、伊) [会話] ユスランメ。子供の時分にや(頃には) ゆずつて ゆずつて ユスランメ言うて。ユスランメより他に 喰うもな(物は) 無かつたよって(から)、よお(よく) ユスランメ採りん(に) 行きおったやんかい(行きました)。ユスランメ あや(あれば) じっきん(すぐに) になって来るよって(から)。そいらの時分にや(その頃は) しんしゅうぐみやとか(だとか) ユスランメや(とか) そいなもん(そんな物) よりなかつたなあ(有りませんでした)。 そんな(それが) 有ると よけ(沢山) になって こだれて(枝が垂れる) すると、むしつて採りおったわい(採りました)。

ゆずりは(譲葉)【名詞】植物 ししば参照

ゆずりやい(ゆづりあい、ゆづりあひ)【名詞】譲合 互に譲り合う事

ゆずりやう(ゆづりあふ)【他ワ五】譲合 互に譲る

ゆずりわたす(ゆづりわたす)【他サ五】家督

を次に伝える

ゆせん(湯銭)【名詞】 入浴料 銭湯に入浴する料金

ゆぞおめん(ゆぞうめん、ゆさうめん)【湯素麺】 【名詞】 茹でた素麺 [会話] ユゾオメン言うな (のは)、湯 沸かしといて (ておいて) 湯へ 漬けといて (ておいて) したじ (付け汁) は したじ でつけて喰う (食べるのを)。

ゆだる(湯樽)【名詞】 ゆたんぼ 湯の熱量を利用して身体を温める保温用具 主として老人 病人 乳児に使用され、専ら寝床の中で用いられる。使用に際しては、直接体にふれぬよう、布で包んで用い、湯の漏れないように注意する事が必要で有る。

(鳥) [会話] ユダル言うて 昔や (は) 炬燵の代りに ユダルや (だ) 言うて、せともん (瀬戸物) ののおい (のへ)、そしたや (そうしたら) こんだ (今度は) ブリキンのおな (の、のが) 流行って来て、ブリキンのお (のを) しよおった (して居ました)。今しや (今は) 電気んのお (ののを) するけど (するが)。瀬戸もんな (物が) いっち (一番) ええんてわい (よいそうです)。温度な (が) ええねけど (よいのだが) ブリキンのおは (ののは) ちよいと (少し) 当ると やけずんね (やけどするのです)。きれな (布が) かぶせてあんねけど (有るのだが) 薄かったりすると やけずり (火傷) する時な (が) 有る言うて。そやけど (しかし) 瀬戸もんののおは、やけずりする程も あつならん (熱くならず)、湯な (が) いつ迄 長持ちしとんのな あ (して居るのです)。湯たんぼ、ユダル言うて 昔や (は) 言よおった (言っていました)。丸くとお (丸く) 蒲鉾形みたよおんしとて (のようにして居て) 下な (が) ぺたんとして。

ゆだる【自ラ五】 茹であげる ユデラル (被火薬) の約転 (大言海)

ゆたん(油單)。 **ゆたんぶろしき【名詞】** 1) 大きな風呂敷 2) 箆笥や長持ちにかける布 (上、阿) [会話] 1) ユタン言うのは 商売する人らな (が) 風呂敷敷のどいらいの (大きいのを) あいなおっきいの (あんな大きいのを) ユタンや (と) 言うの (のです)、ユタンフロシキや (と) 言うの。

ゆたんぼのひいぬく【俚諺】 排尿する 小便する [会話] ゆたんぼ言うて ゆたんぼは ひいな (栓が) 有りおったやんかい (有りました)。そやよつて (だから) よけ (沢山) 酒 飲んで おしっこしとる (小便している) 人らな (が) 有るやんない

(でしょう)。道い (へ) 立って よお (よく) しとりおったやんかい (していたではありませんか)。あやあれまあ ユタンポノヒイヌイ トシナア (ている) 言うて、よけ (沢山) だあだあ だあだあとするもんで (ので) 言いおったなあ (言っていました)。あの人な (が) まあ道で ユタンポノヒイヌイタグライヤ (だ) 言うて 酒飲みや (は) だあだあと よけ 小便な (が) 出るやんかな (出るで有りませんか) よけ (沢山) 飲んどる (でいる) 人は ながしょんべ (長小便) して。ユタンポノヒイヌイタや (たら) だあだあと 幾らでも ゆたんぼん ゆうな (湯が) 全部落ちる言うたら まあ 長い事かかるやんかいなあ (です) それを 例えてあんねやるなあ (有るのでしょうか)。

ゆつくら【副詞】 ゆつくり (三、鈴市、安、伊)

ゆつくりしてかんかい ゆつくりして行きなさい 別れ際の挨拶 ゆつくりしてけえ参照

ゆつくりしてきやええのん ゆつくりして行けばよいのに 別れの挨拶 ゆつくりしてけえ参照

ゆつくりしてけえ ゆつくりして行きなさい 別れ際の挨拶 [会話] 皆 同じ意味やけどなあ (です) まあ ゆつくりと遊んで下さい言う事を、ユックリシテカンカイとか ユックリシテケエ言うてな。別れしなの (際の) 挨拶やなあ (です)。まあ行くわい (もう帰ります) 言うと、もっと ユックリシテケエ言うたり、ユックリシテカンカイ言うたり、そして どいらい (大変) おってほし (居て欲しい) 時や (は) もっと ユックリシテきやエエノニ (行けばよいのに) 言うの (のです)。

ゆつくりすわる あぐらをかく (上、阿、張、名)

ゆつくりせんかい 1) 正座をしていないで胡座をかきなさい。2) もっと長く居なさい。[会話] 1) ユックリセンカイ (しなさい) 言う時、きちんとむことると (正座して居ると) おおひざ (あぐら) かけ言うのを 楽ん (に)、座ってくれえ (下さい) 言うのを、おっきい (大きく) なって 楽ん座ってくれえ 言うて。おおいざ (あぐら) かいて おっきいなって だくん (楽に) 座ってくれえ ひざも割って 楽ん (に) 座ってくれえ。

ゆでだこ(茹蛸)【名詞】 熱湯で茹でた蛸 うでだこ、転じて入浴後の、又酒を飲んだ後の赤くなった状態

ゆでたまご(茹卵)【名詞】 うでたまご 鶏卵を殻のまま熱湯を通した物

ゆでる(茹) 熱湯に入れて煮る うでる ユズの口語

ユズ 湯イズ (出) の義 (大言海)

ゆどり【名詞】 囲炉裏 [会話] 昔の家や (は) ユドリな (が) 有りおって (有って)、台所の真ん中い (に) この位 (2m四方) のくどな (火を焚く所が) 切って有って、ひい (火) 焚いて 上から 葉罐な (が) 吊がとて (ていて) ゆう (湯) 湧かしたり おかずも 皆 ユドリで炊いて。

ゆびき (湯引)【名詞】 熱湯の中をざっとくぐらせて 魚肉などの表面を白くする事

ゆびきり (指切)【名詞】 約束、子供が約束する時、互の小指をからませてする動作 ユビキリげんまん ゆびきったら はりせんぼん のおましよ

ゆびさし (指差)【名詞】 裁縫で針の頭を押すため指にはめる革、金属などで作った輪 (上、阿、南) [会話] はりさしを 糸尻をするのを ユビサシや (だ) 言うてな、針仕事する ユビサシをな 金ののおな (のが) 有りおったわい (有りました)、革も 又、はやって来たけどな。

ゆまき (湯巻)【名詞】 腰巻 いまき 昔は着物の上に腰から下に巻き湯のかからぬ様にした物 (志、阿)

ゆみで (弓手)【名詞】 肘関節を伸ばした時、腕が外側に反る手

ゆびなまがとる 盗癖がある

ゆみのきい【名詞】 ヤブムラカキ マカキ

ゆびのまいまい【名詞】 指紋 [会話] 指紋を マイマイや (だ) 言うて。

ゆみはり (弓張)【名詞】 提灯 弓張提灯 弓と言う 曲った竹を以って上下に掛けて張って用いる [会話] ユミハリ言うて 提灯が有ってなあ、ほそながあいのな (細長いのが) 有るし、普通の人な (のは) 持つな 弓な (が) して 持つよおん (に) なって、それを ユミハリ言いおったの (言って居たのです)。持つとこな (所が) 弓みたいん (のように) なってなあ。昔や (は) 嫁入りん (に) になると 必ず ユミハリを張り替えてなあ 初午とか言う時ん (に) になるとなあ、まあ そや (それ) ユミハリも、してもろとかなはざんど (貰らっておかなければいけないぞ) 言うて、ふるなってくやんかい (て行くのです) そすと 新しの (のを) 張り替えて 提灯屋な (が) してくれておってな (くれて居て)、ちゃんと 紋も 置いてもおて (貰らって) そして 弓な (が) ついて まあるい (丸い) のも有るし ほっそおてなんがい (細長い) のも有るし。ユミハ

リは 結婚式や (とか) ええ (よい) 時ん (に) 持たなはざんもんで (なければいけないので) 大事に しとるけど (しているけれど) 普通の時 は 箱提灯言うを、使いおったなあ (使っていました)。

ゆもじ (湯文字)【名詞】 婦人が着物の下に腰から脚部にかけて直接おおう布 腰巻 (志 (浜島、越賀、鶴方)、鈴市、安) [会話] ユモジ 腰巻きの事を ユモジも買わな (買わなければ) 言うて言よおったなあ (言っていました)。腰巻きや (だ) なかねや (腰巻だ) 言うて ユモジ言う人ら あんで (あれで) 上品な人らな (が) 言う言葉みたいななあ (のようです)、そして 下品な言葉 なかね、なかねもて (持って) 来い言うて、なかねきやんかれ (着なさい) 言うて言いおったなあ (言っていました)。なかねや (だ) 言うて 磯のおでも (のでも) イソナカネとか、言うてなあ。

ゆやあるく 言う 言いふらす 言いまわる [会話] あげん (あんなに) ユヤアルク言うて、あっち こっちえいて (行つて) ゆいさがすのを (言いふらすのを) ユヤアルク、なんやかや (色々) 言うて。嘘八ばっか (嘘ばかり) ユヤアルク言うて。

ゆやええ 言えばよい

ゆやええけど 言えばよいが

ゆやええない 言えばよろしい

ゆやげる 1) 言いつのる 2) 結び終る

ゆらかす (揺)【他サ五】 揺する 揺り動かす

ゆり (埧)【名詞】 潮溜り 水をせき止め逆流を防ぐ 水門 水門の有る所 (志 (布施田)) [会話] 何処そこのユリ言うて、たあ (田) のユリ。ユリの戸閉める言うて 一のユリや (だ) 二のユリや (だ) 言うて、波な (が) こっちや (浜) から 入れて来るもんで (入って来るので) そすと そのユリあけとくと (あけておくと) たあい (田へ) 潮な (海水が) 入って、わややおよ (目茶苦茶です) 言うて。潮溜り 潮よけやわい (です)。ユリ言うて 潮遊び 言うて ユリな (が) あいて 潮な (が) 入って来ても、潮遊びで 田 よけるよおん (に)。潮遊びな (が) 有ると よしな (が) 生えてしとりおったわい (して居ました)。田のしりやとか (だとか) なんに。ユリノト 言うて ユリ しめな (なければ) 潮な (が) 入ってくんど (来るぞ) 言うて ユリしめんと (しめずに) 忘れたらと (てやると) 田へ入って (海水が入って) 今から (三月頃から) 秋迄は 潮 入れたらと (てやると) 稲な (が) は

ざんよおん（駄目なように）なつてくやんない（行くでしょう）。そやもんで（それで）ユリしめ（しめなさい）、波な（が）、時化な（が）してくるよつて（から）ユリしめな（なければ）言うて、ユリしめたと（てやると）こんだ（今度は）大雨な（が）降ると 上からくんのな（来るのが）出やせんもんで（出ないので）浮くやんかい（水に浸ります）。ユリ しめたと 上な（が）はざんよおん（いけないように）なつて来る あけとくと（ておくと）田な（が）はざん 時な（が）あんねてや（有るのです）。

ゆり（揺）【名詞】 祝いの時に入れ物として用いる容器 揺の字を用ふべし。稲などを農家にて磨落として動揺する具にて無くてかなわざる物なり。吾党中人以上の家にも必ず此物をたくわへて、正月の餅を此の器に納れ鏡餅などを遣わすに之を納むるを故実とするは、古の山家なりし余風にて、今に早朝焼き飯を喰うも同義なり。然りして宝永の火後、揺と云う物、多く焼失して稀になりたり。民間に桶の扁なる器をユリヒと称するも穀物などの雑ざりあるをゆるが故也。其の粉を名けてユルコといふ。民間の葬送にゆりに飯を汁と味噌と塩を入れて女の髪をみだして是をかつかしむる風あり。是上代よりの俗なるべし。儒にも霊前をもたすることあり。又みそ塩を一器に入るを忌むも是故とぞ。（伊勢の浜萩）（志（神明、立神、志島）

ゆりかえし。ゆりなおし【名詞】 余震

ゆりのと【名詞】 潮溜り 海水の侵入を防ぐ所 又そこに有る扉 [会話] ユリノト言うのな（が）有つてなあ、たあ（田）を よけ作つとるやんない（沢山作っているでしょう）、そすと 波な（が）立つとなあ その ゆりを 閉めとかな（ておかなければ）、たあ（田）え 皆 潮な（が）入いるもんでなあ（入いるので）ユリノト、閉めん行け言うてなあ 閉めん（に）行かなはざんし（なければいけない）、雨な（が）よけ（沢山）降ると 又 稲がつかつてくと（ていくと）いかんもんで（いけないので）ユリノト 開けん行くんやんかな（に行くのです）。

ゆりもち【名詞】 祝い時 ゆりを持つ人。家の新築の時、主に大工の棟頭の妻がつとめる。進水式には、船主 又は、船頭の妻がつとめる。[会話] ユリモチや（だ）言うて、桧のこいなのおえ（大きなのへ）大きな 鏡餅入れて 昔や（は）棟上げん（新

築祝いに）なるとしよおったけど（して居ました）が、今しわ（今は）ふなおろしん（進水式）なると ゆり持つなあ（持ちます）。船頭のかかな（妻が）ゆり頂くやんかい（頂きます）。船い（へ）持てくのん（持って行くのに）ゆり持って 船靈配りの餅 積んでするけど（が）。昔や（は）棟上げや（だ）言うて 餅 撒いて ユリモチや（持ち）は おだいく（棟梁）の かかな（妻が）しよおったね（して居たのです）。桧の盟の ちっちゃいみたよなのおん（小さいのようなのに）鏡餅を それい（へ）入れて、それ頂いて（頭に乘せて）梯子い（へ）登つて おだいく（棟梁）のかかな（妻が）紋付き着て 昔や（は）しよおったわい（して居ました）。

ゆりもどし【名詞】 余震

ゆるい（緩）【形容詞】 緩い おだやかだ（鳥、張、名）[会話] 帯な（が）ゆるで（ゆるんで）まあ言うて、ユルイと。なんでも（何でも）しばる（くく）と そげんユルウ（そんなにゆるく）しばらんと（ずに）、しっかりしばつとかんかれ（くくつておきなさい）言うて、きつづ（きつく）しばれ言うの（のを）しっかり しばつとかな（ておかなければ）もつてく（もれて行く）とか言うて。ユルイ 帯な（が）ユルイとか、しばつたのおな（のが）ユルイとか。

ゆるう ゆるく、緩るく

ゆるくたい 緩い

ゆるだ ゆるくなった 堅さがなくなった [会話] 地盤な（が）ユルダ（弛るんだ）。

ゆるで ゆるくなって おだやかになって [会話] たがな（桶の輪が）ユルデ言うて わあ（輪）がユルデ来た時の事。

ゆるなる ゆるくなる

ゆるまる（緩）【自ラ五】 ゆるくなる

ゆるみ（緩）【名詞】 1）緊張がなくなること たるみ 2）余裕 [会話] 1）ゆるんで来た言うの（のです）ユルミな（が）来たやんかあ（でないか）言うて、なんやかやな（いろいろ）いたんで（古くなって）来た時もある、ユルミな来た言うし、きちつと縛つて有るもん（物）が ゆるんで来ると そやまあ（それ）ユルミな（が）来たやんかあ 言うしなあ。そして 人間でも ものすごお（大変）健康なかつた（だった）人な（が）体な（が）わりなつて（悪るくなって）来て あの人 ちょいとまあ

(少し) ユルミな (が) 来たなあ言うんなあ (言うのです)。緊張が解ける言うのも 張り切ったの おな (ていたのが) ユルミな (が) とけて。

ゆるめる【他マ下一】 1) 引っ張り具合や締め加減をゆるくする たるませる ゆるくする 2) 緊張を解く [会話] 1) ユルメル言うのは 締めてあんの を (あるのを) ユルメル言うて きちっと 絞めて 有るやんない (でしょう)、あんまり (あまり) きつ過ぎるよって (から) ユルメタレ 言うて、解いて ゆるめなおしおったなあ (居ました)。人をせえせえ せえせえ言うとたのおを (言っていたのを) ちょいと (少し) 柔らかくなって来ると、ちょいと あのひた (人は) まあ ユルメテ来たなあ言うて、あんまりきつつ (あまりきつく) 人を せんぎりつこて (沢山使って) つこて しおったのおな (していたのが) ちょいと 使うのな (が) おとなしななって (おとなしくなって) 来ると、まあ ちょいと ユルンデ来たなあ言うてなあ、気な (が) ユルンデ来たんなあ (のだ) あんでなあ (あれで) 言うてな。

ゆるゆる(緩)【副詞】【形容詞】 1) 動作が遅いさまを表す語 急がないさま 2) ゆるんださま 締りのないさま (熊) [会話] 2) ユルユル言うな (のは) ゆうるうて、たわいな (持ちこたえが) 無いよおん (ように) なって来て、帯でも 締めとると (ていとう) おなかが空いて来ると ユルユルん (に) なって来るやんかな (来ます)。腹な (が) へって ユルユルん (に) なって来たれ (来ました) 言うやんかな (言います)。腹な (が) へって 腹な (が) へって まいかけ (前掛け) のひぼ (紐) も ユルユルん (に) なったんどお (のだ) 言うて 畑で いっしょけめん (一生懸命に) 働いて来るもんで (ので) 腹な (が) へって。1) ユルユルしとる (している) 言うと、のんびりしとる (している) 言うのか 歩くのでもなあ ぼちぼち 歩くのをなあ ユルユル歩かんかれ (歩きなさい) そげん (そんなに) せいて行たら (急いで行ったら) いきづくぞ (疲れる) 言うて。ユルユル言うて 短こお (短かく) 言うのは しまりが無い 帯がゆるんで来た時ん (に) ユルユルん (に) なった言うて、なんごお (長く) 言うのは ゆっくり歩け言うのな (しなあ (です)。

ゆるり。ゆろり【名詞】 囲炉裏 いろいろ 室内の床を四角に切って火を燃やし、暖を取ったり 煮炊きし

た所 ゆるり ゆどり (志 (片田、甲賀)、鳥 (国崎)、桑市、員、三、四、鈴郡、鈴市、亀、一、多、伊、北)

ゆわ【名詞】 岩 地殻を構成する堅い物質 岩石 石の大きい物 (志 (鶴方、立神、甲賀、国府)、鳥、桑市、員、三、鈴市、鈴郡、安、松、多、上、阿、度、伊、北、尾、南) [会話] 石の事を ユワ言うて、此処らの人ら ユワやなあ (です) いわ言わんと (言わずに) ユワやなあ。

ゆわ【名詞】 海底の暗礁 いわ参照 (志 (布施田、鶴方、磯部、立神、甲賀、国府))

ゆわい (いはひ) (祝)【名詞】 祝う事 祝賀 祝賀の行事 (志 (鶴方、立神、志島、国府)、鳥 (加茂)、員、三、鈴市、鈴郡、安、津、松、多、上、阿、張、度、伊、尾、北、南) [会話] ええ事あって ユワイ (祝い) にやる時や (は) しなもん (品物) やる時もあるし、お金でやる時や 祝儀言うて しなもんでやる時や (は) ゆわいもん (祝物) 言うて。

ゆわい【名詞】 位牌 (志 (御座)、張、名)

ゆわいうた (祝歌)【名詞】 祝いの意を表す歌 祝いの席でうたう歌 伊勢音頭 [会話] ユワイウタ言うな (のは) 伊勢音頭やとか (だとか)、よいころ 節やとかなあ (だとか) 祝いの時の歌。

ゆわいごと (祝事)【名詞】 めでたい祝うべき事柄 [会話] ユワイゴト言うな (のは)、結婚式で祝うとか 子供が産まれて祝うとか 又 成人を祝うとか そお言う時んなあ (に) ユワイゴト言うてなあ 正月やとか (だとか) はつんまやとか (初午だとか) ユワイゴト言うのな (です)。

ゆわいつける【他カ下一】 結びつける [会話] なんかい (何かへ) ユワエツケル言うて、杭みたよおな (のような) 打ったり なんぞ (何か) 立つとるもん (立って居る物) へ しばんのおなあ (くくるのを) ユワイツケル 言うて、それい (へ) ひっつけて ゆわえんのおなあ (くくるのを) ユワイツケル 言う。結びつけんのな (つけるのを) 結びつけえとか ゆわいつけえとか。結ぶ言うのを ゆわえる 言うねよって (言うのだから)。きい (木) ゆわえる とか 藁 ゆわえる とか言うて 結ぶ からげる とか言うのを、ゆわいとけ (ておけ) 言う人も有るし、からげとけ 言う人も有るし 結びつけとけ 言う人も有るし、結ぶのな (のです)。

ゆわいもん (祝物)【名詞】 祝いの時に送る品物 [会話] ユワイモン言うのは、言うと 祝儀の代りん

もてく (に持って行く) よおなもん (物) 祝儀もん
やわなあ (物です)。金で もてく (持って行く)
人も有るし、しなもん (品物) で もてく 人も有
るし、祝い物なあ (です) ユワイモン言うのは こ
ちらからもてくのと (持って行くのと)、いおとる
(祝っている) 人な (が) 記念に呉れるのと、両方
や (です) ユワイモンもろてなあ (貰らって) 言う
て、やっても (あげても) もろても (貰らっても)
イワイモンもろたなあ (貰いました)。

ゆわう (ゆはふ) (祝) 【他ワ五】 いわう 1) 吉事に
ついてよろこびの気持を言葉や動作であらわす
2) 祝福するために金品を送る (鈴市、伊) [会話]
1) ごっそお (御馳走) して ユワオヤンカレ (祝い
ましょう) 言うやんかい (言います)、正月でもユ
ワオヤ (祝いましょう) 言うて、いつもは 飯くお
や (食べよ) 言うんけど (言うのだが) 正月言葉
で 御飯食べる時ん (に) ユワオヤンカレ 言うの
な (です)。御祝すんのんなあ (するのに)、おつご
もんやんない (大晦日にです) はよ イワオヤンカ
レ 御神酒も頂いて言うて そすと 朝でも お雑
煮 早よ イワオヤ 言うて、そいな (そんな) 正
月とか 目出たい時な (が) 有る時は 御飯食べる
時 まあ はよ、イワオヤンカレ 言うてな。

ゆわえめ 【名詞】 結び目 物と物とを結び合せた所
(南) [会話] ユワエム言うな (のは) ゆわえて
(結んで) 有るとこ (所) の めえ (目) を ユワ
エメ。あっちゃもゆわえ (あちらも縛り) こっちゃ
もゆわえ (こちらもくくり)、ユワエメな (が) そ
やれ (それ) ゆるんで来たやんかあ (でないか)、
絞めなおさな (なければ) 言うて よお言うな (よ
く言います)、結んで有るとこ (所)。結び目の事を
ユワエメ ユワエメもえごとしとかな (完全にして
おかなければ) 言うて。

ゆわえる (ゆはへる) (結) 【他ア下一】 結ぶ 束ねる
(志 (浜島、布施田、立神)、鳥、松、伊、北) [会
話] なんやかや 置いてあんの (有るのを) ユワ
エル。なあ (縄) でも ひな (紐) でも ユワエ
ルとか からげるとか。

**ゆわおや。ゆわおやんかい。ゆわおやんかな (女性
語)。** ゆわおやんかれ 祝いましょう ゆわう参照

ゆわかし (湯沸) 【名詞】 薬罐 茶釜 (鳥 (相差)、
上) [会話] 薬罐の事を 湯 沸すもんで (ので)
ユワカシ言うて、薬罐とか どひん (土瓶) とか
湯 沸すもんで。てんどりやとか (だとか) 茶釜言

う人も有るし。かんすや (だ) 言う人も有るし (有
ります)。かんす言うな (のが) いっち古いねやろ
(一番古いのでしょうか)。かんすの湯を言うて そ
やけど (しかし) てんどり言う家も有るし、鉄のの
おを (のを) てんどり。てんどりい (へ) どひん
(土瓶) 据えたよおなあ (ようだ) 言うて、首な
(の) 短かい人見ると、首な (が) なんも、ねえも
んで (少しも・全く無いので)。

ゆわく 【名詞】 理故 外からは判らない隠れた事情や
理故 [会話] ユワクは 判らせんけど (判らない
が) さがり漕ぐと (欠損が出ると) 仙太船やよお
(だ) 言うて。

ゆわくなある 何かわけが有る (志 (布施田))

ゆわされる 1) やられる やつつけられる 盗られ
る。2) 人にものを言うようにしむけられる。[会
話] 2) ユワサレル言うて こげん (こんな) 言
うて 言うたれよお (言ってやれ) あげん (あんな
に) 言うて 言うたれよお 言うて、おらまあ (俺
は) そいなこた (そんな事は) 言いたないけど (言
いたくないけれど)、それ言うたれ 言うて、ユワ
サレルもんなあ (のです) 言うて 言う時ん (に)
ユワサレル言うて。1) やつつけられた 盗られた言
う時に あれん (彼に) ユワサレタヨオ言うて、な
んでも (何でも) やらまい (与へまい) 思とんの
(思っているのに) もてたおり (持って行った時)
も あれん (彼に) ユワサレタタヨオ (てしまっ
た) 言うて、盗まれたとか とられた言うのを や
られたたよお (やられてしまった) 言うて、あんな
(彼が) ユワシタテンナア (行ったのだ) 言うて、
いたしてた言う時も有るし、あんな (彼が) いたし
てたんかして (盗って行ったのか) 無いわれ (有り
ません) 言うて。

ゆわし 【名詞】 鯛 (志 (布施田、御座、磯部、立神、
国府)、鳥、桑郡、員、三、四、鈴市、鈴郡、安、
津、一、松、飯、多、上、阿、張、伊、尾、北、南、
熊) [会話] いわし (鯛)。此処らの人ら ユワシ
や (だ) 言うの (のです)。

ゆわしたた やり込めてやった [会話] やつつけた
た (てやった) 事も あれ (彼を) まあ ユワシタ
タ言うて。

ゆわしてきた 1) 盗って来た 盗んで来た 2) や
つつけて来た [会話] 1) ユワシテキタ言うのは
なんやかや (いろいろ) 盗んで来る事を ユワシテ
キタ言うなあ (のです)。ことわり (許可) 無しに

なあ 此の家のもんな (物が) 此処ん (に) 有る
これ いわしてけ (ていけ) 言うて、ことわり 無
しん (に) もてくんのを (持って来るのを) ユワシ
テキタ言うてな。²⁾ やっつけたた (てやった) 言う
のも あれ (彼を) まあ ユワシテキタ 言うて
言い込めたた 事をなあ。

ゆわす 閉口させる いじめる (志 (志島、甲賀、国
府)、鳥 (加茂)、員、一、多、上、阿、張、名、
北) [会話] ユワス言うな (のは) 盗んで来る言う
のも有るし。自分のもん (物) にする言うのも ゆ
わして来た。あやまあ (あれは) ゆわして来たんな
あ (来たのだ) 言うて。そいて こっちゃ (こちら
は) ゆわされた 言うて。相手 ユワシトイテ (てお
いて) 来たよお (来ました) 言うて やりこめる事
を、ごおなわいて (腹が立って) 言うて (言っ
て) 言うて 言いまくって へっこましといて来た (へ
こまして来た) とか ユワシトイテ (ておいて) 来
たとか言うて。彼女 ユワシタンテワレ (ゆわした
そうだ) 口説き落した あやなあ (彼女は) 石より
かつたいねのん (堅いのだのに) よお (よく) ユワ
シタナア言うて。よつぼど (余程) 口な (が) 上手
なんなあ (なのだ) 言うて。

ゆわす 打つ 殺す (三重県)

ゆわす 取る 盗む せしめる 前々項 ゆわす参照

ゆわす 自分のものにする 口説き落す 前々々項
ゆわす参照

ゆわれ (ゆはれ) 【名詞】 1) 物事のもとになる 理
故 わけ 2) 古くから言い伝えられている事柄
(志 (布施田)) [会話] ²⁾ 古い時からの 言い伝
え言うんか (言うのか) イワレな (が) 有る言うて、
あやまあ (あれは) ユワレな (が) あんねのんなあ
(有るのだのに) 言うて。かめぞ屋の地藏さんが
そこ (そこへ) 行くと 病気な (が) 治るとか な
んやとか (なにだとか) 言うて ユワレな (が) あ
んねど (有るのだ) 言うて。かめぞ屋の地藏な
(が) 喘息の神さんやら (だとか) なんやら (なん
とか) 言うて、行きおったんてや (行って居たので
す)。縁日な (が) 有って そいなのおを (そんな
のを) ユワレな (が) 有る言うて。

ゆわれ 言います (志) [会話] そげん (そんなに)
ユワレ、人な (が) こげん (こんなに) ユワレ言う
てな。人な (が) なんか (何か) 噂しとるとな (し
ていると) 人な (が) まあ こげんして (こんな
に) 言うとなれ (言っていた)、こげん ユワレま

あ言うてな ゆうとなれ (言っていました) とか
ユワレとか、言うておる (居る) 言う事を ユワレ
言うのな (です)。

ゆわん 言わない

ゆわんこそ 言わないで居るから 言わないから
[会話] おんな (俺が) ユワンコソなあ言うて よ
お言よおったな (よく言っていました)。

ゆわんことか 心配した通り、言った通りになった

ゆわんといて 1) 言わないで下さい (阿、張、名)
2) 言わないのに [会話] ¹⁾ そいな (そんな) 事
言うたら (言ったら) いかん言う事 言わんと (言
わずに) いておいて下さい言うのをなあ、そいな
(そんな) 事 ユワントイテ言うのな (です) 言う
てくれんな (言ってくれるな) 言う事をな。

ゆわんならん 言わなければならない (志 (布施
田))

ゆわんもんやれ 言ってはいけない [用例] そいな
(そんな) 事、ユワンモンヤレ。

ゆんべ 【名詞】 昨夜 ゆうべ (夕) の転 よんべ (志
(国府、浜島、志島、御座、布施田、鶴方、神明、
立神、甲賀)、鳥 (坂手、桃取、国崎、答志)、桑郡、
桑市、員、三、四、鈴市、鈴郡、安、津、一、久、
飯、松、多、阿、張、名、度、伊、尾、北、南、
熊) [会話] よんべ 言う人も有るし ユンベ言う人
も有るし ユンベヤなれ (昨晩は) 言うて よんべ
や 誰それな (が) 来て言うて。

ゆんべや 昨夜は [会話] ゆうべ (昨晩) 言うのを
ユンベヤ言うね (のです)。ゆうべは 言う事をなあ
ユンベヤなれ (です) 言うて、ユンベヤ よばんし
な (夜這いする人が) 来てなあ言うて。

ゆんべら 昨夜は (上、阿)